日本共産党北区議会議員
さがら としこ

区政レポート

2013.5.24.NO.1137.

ご相談はお気軽に
TEL FAX とも 3905-0970
さがらとしこ事務所
赤羽北3-23-17
(バス停「赤羽北3丁目」、メガシティ近く)
日本共産党議員団
区役所内 3908-7144
http://www.kitanet.ne.jp/~kyoukita/

暑くなってきました。
梅雨も近づいて、
くれぐれも
体調に気をつけて
おすごし下さい。
そねはじめ・切り絵
黄色のTシャツで、都議選です。

「北区の医療と介護連けいを考えるつどい」5/6
飛鳥ホールに300名、熱のこもった報告と交流
北区内の新たな挑戦に注目です!!

◎そねはじめ前都議の挨拶あいさつにつづいて、次のような内容が語られました。

●浮間さくら荘高齢者あんしんセンター相談員の関口久子さんは、

病気や障害を持ち、経済的にも困難を抱えている家族に対し、地域の医療・介護の専門職やご近所の協力も得ながら、入・退院、在宅生活や金銭管理の支援などを行った実践を紹介し、**医療・福祉・介護サービスの顔の見える対人ネットワーク、協同・連携のしくみづくりをすすめたいと報告しました。**

◎河村医師は、桐ヶ丘、赤羽台の高齢化に対する対応策にもふれられ、崖地のエレベーター設置の緊急性も訴えています。住宅やまちづくりとの関連も大切ですね。

●北区医師会副会長の河村雅明さんは、

今後、大都市を中心に高齢化率が上昇、北区でも地域的には高齢化率が50%を越えるところもある中、区民ニーズでは住み慣れた地域や家で暮らしたいという希望が高い。病気を持ちながらの在宅生活は、看取りも含めて、地域で支えていける体制が必要として、地域包括ケアシステムの構築、他職種の協同ご近所もまき込んでみんなですすめる体制が必要と指摘。

そのために医師会としても、**在宅医療を実施する人材育成、在宅療養支援診療所や病院の連携・病状悪化時の緊急入院ベットの確保、情報共有システムの構築、高齢者あんしんセンターとの協同、区民への啓発等に取組んでいきたいと述べました。**

◎河村医師は、やまぶき荘などの介護施設の**サポート医**をしておられます。
※サポート医制度は、北区の独自の制度です。

小池晃党副委員長、医師としても政治の役割りを語りました。

「北区では介護認定のランク下げ問題、北社会保険病院や印刷局東京病院など医療ベットの確保、高齢者福祉費の改善等に取り組み皆さんと共に政治を動かしてきている。その中で、北区も「長生きするなら北区が一番」として、実態調査にも取組み、前向きな変化をつくってきた。**カギは医療・介護がしっかり連携して基盤整備をすすめていくこと。医師会とも協力し、地域ケアの受け皿をつくり、北区でのとりくみを後押ししていきたい。**

一方、現場の実態、くらしの要求は切実だ。区の調査でも経済的にゆとりのない高齢者は55.8%、介護保険の保険料段階でも本人非課税者は61%、年金収入280万円以下は73%と7割は所得が低い現状の中、高い国保料、介護保険料で滞納もある。特養ホームは938名の待機。個室やグループホームの利用料も高くて入所できない。**お金の心配なく、医療や介護を受けられるような政治にしてほしいというのが皆さんの願いです。**」と強調しました。

※小池晃党副委員長の発言のつづきは、裏面にのせていますので、ごらん下さい。

※「つどい」の貴重な資料、記録DVDもあります。必要な方は、声をかけてください。〜さがらとしこ〜

北区医師会の野本会長は、「TPPは、国民にとって不利益。皆保険制度が崩される」と語りました。

◎「北区の医療と介護を考えるつどい」へのご協力ありがとうございました。日本共産党北区議員団

<1めんのつづき> 小池 晃さんの発言

「アベノミクスは、どれも毒矢だ」

続けて「アベノミクスはそうした願いを打ち砕く。お札だけ刷っても、庶民にはまわってこない。株価上昇の恩恵はひとにぎり。ユニクロの柳井社長は4人家族の保有株式でわずか半年で1兆円も資産が増えた。一日8時間労働にすると時給7億円。私が今5分話したが5000万円だ。金融緩和で金利は上昇。一方で銀行の中小企業向け貸し出しは減っている。3本の矢というが、4本目は消費税増税、5本目は社会保障の改悪。どれも毒矢だ。」と指摘しました。

小池さん、政府のねらいを告発

「また直近の財務省財政制度等審議会の報告で、社会保障に財政は回せないと、今年の10月からは年金2.5%、1兆2千億円の削減。丸々消費が減るからデフレも心配される。医療費は70歳以上が1割から2割負担へ。風邪薬は保険給付からはずし7割負担。介護保険の利用料一割負担は引上げへ、要介護2以下は保険給付からはずして、地域支援事業（市町村の独自事業）へ移していこう。地域包括支援ケアにもお金は出さない等、社会保障削減、国民負担増がめじろ押しだ。」

政府は社会保障を削るだけ

更に「国民年金の未納者は4割。未納未加入免除で1000万人を越えている。滞納者の74%は経済的困難。これでは将来、無年金者が大量に生まれてしまう。介護でも介護離職は14万人。介護などを苦にした心中・自殺は年間550件。今の日本の社会保障はくらしを支えるどころか、そのことを苦にして死に追いやるものだ。政府はお金を削るだけ。給付抑制と負担増だ。」として、「本当の改革が必要。どう解決をするか。介護保険は限界にきている。国庫負担25%では低すぎる。特養ホームも増やすと保険料に跳ね返るしくみ。全国市町村長会からも要望が出ている国庫負担10%引上げを実現する。これは8000億円必要。特養ホーム待機者が42万人もいる。年間8万人の増床で5年計画でかい賞する。これで4000億円。計1兆2000億円あれば可能だ。**憲法25条の生存権をかかげ、社会保障の改悪は許さない。安心できる政治をつくっていこう**」とよびかけました。

野本医師会長、TPPを批判

「北区医師会は区民の幸せ、どうしたら区民を支えることができるかを考えて取組んでいる。医療・介護、病院と診療所、他職種連携、北区で先進的にすすめている。

一方で、ＴＰＰの交渉参加でアメリカ型の医療が入ってくると大変。アメリカでは公的保険がなく、私的保険だが、お金がないと保険に入れず医療が受けられない。医師も保険会社の書類に忙殺され、どんどん査定される。**日本は国民皆保険で50年たったが、世界一寿命が延びた。日本医師会はTPPは国民にとって不利益であるという立場だ。**

北区で高齢化が一番というが、**健康寿命をどう延ばすかが大切。生活習慣を改善して、健康寿命を延ばせば医療費も軽減できる。**」

"政治を変えましょう"と小池晃党副委員長が訴え

「医師会長のお話は100%賛成。ＴＰＰは事前交渉の段階からすでにアメリカに負けている。日本の郵政保険もアメリカの顔を伺い、認められなかった。入口からいうがまま。本交渉に入ったら大変なことになる。ＴＰＰは鴨がねぎをしょって自ら熱い鍋に飛び込んでいくようなもの。世界に冠たる国民皆保険制度を壊していいのか問われている。」

「後期高齢者医療も医療の内容としての差別は抑えてきた。廃止にむけ引きつづき取組む」

「医療・介護現場の大変さは、政府が安上がりですすめようとしていることの反映。その人にとって必要なことをすすめるという立場で在宅ケアを充実させなければならない」

「介護保険で全てやろうというのは無理がある。自治体でも高齢者福祉の充実必要と思う」

「大型公共事業で大幅歳出、一方、削減は年金、医療、介護、こういう動きを地域の連帯、社会の連帯で跳ね返してゆこう。**社会保障は施しや代替ではない。国民の基本的人権だ。それを実現するのが政治の責任。共にがんばりましょう**」と呼びかけ、会場から大きな拍手が寄せられました。

■ 今号は、文字が多くなってしまいましたが、それぞれ貴重なお話です。どうぞ、およみ下さい。

■ 5月18日(土)は、赤羽西地域の「9条を守る会」3周年。安倍内閣の改憲暴走を許さないよう、9条とともに、96条を守りぬこうと、迫力の訴えに、身のひきしまる思いです。

■ 5月19日(日)は、北区母親大会で、TPP参加をストップさせようと講演会。どちらも会場にあふれる人。

参加者の声

◎ かつては、老人医療費無料化の時代があった。政治を変えて、医療をよくしたい。 ◎ 国民年金で入れる特養ホームをつくってほしい。 ◎ 若い人も安心して働ける介護の職場に。

◎ 義母と姉の介護をしてきました。姉の3年にわたる介護では、ケアマネさんが、身近なお医者さんと介護施設とつながって、ほぼ希望どおりにプランをたててくれ、何の不安もなく見守れました。医療と介護とが、在宅にむけての「退院カンファレンス」。印象に残りました。